

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	滝川市こども発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和8年1月5日	～	令和8年3月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	令和8年1月5日	～	令和8年3月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和8年1月5日	～	令和8年3月16日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・対象児童にあわせて、二職種での訪問や保護者が同席した訪問等、訪問する形態を柔軟に変えながら取り組んでいる。	・保護者の困り事や訪問先施設の担当者と相談しながら支援体制や内容を検討している。また病院受診している児童では、保護者の同意を取った上で保育所にも情報を伝えるよう努めている。	・今後も様々な視点で対象児の支援ができるように情報を共有しながら支援体制や内容を検討していく。
2	・当センターの児童発達支援及び放課後等デイサービスの通所児童が対象になることが多く、保育所等の訪問先場面だけではなく、通所時の個別指導も含め対応することができる。加えて、当センターは親子通所の形態をとっており、保護者との相談にも対応ができる。	・保育所等訪問支援以外にも保護者と情報を共有できる場があり密に連絡をとることができている。 ・集団活動の場面で課題が生じた場合でも迅速に対応するように努めた。	・様々なニーズに対応できるように、保護者や訪問先の職員とも連携を深めながら支援を検討し対応していく。
3	・多職種が協働して、お子さんへの支援計画を検討することができる。	・支援計画書作成時、多職種で支援内容を確認しており、様々な視点から内容を検討することができる。	・より専門性の高い内容で意見交換ができるように努めている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・対象児童に合わせた標準的なツールの活用ができておらず、客観的なデータが少ない現状がある。	・インフォーマルな形式でのアセスメントが多く、客観的なデータには弱い。また対象児童の特性や訪問先での困り事は、様々であり支援内容の幅が広いこと、また本事業の経験年数が浅い支援員が多いこと等、様々な要因があると考えられる。	・今後、客観的な視点も踏まえた支援を提供できるように、標準的なツールの活用を検討していく。
2	・年間の実績が少ない現状がある。 ・支援員が他事業も兼任しているため、支援日程が限定的になりやすい。	・支援員は児童発達支援及び放課後等デイサービスも並行して業務にあたっているため、当事業の支援日や時間帯が限定的になってしまう現状がある。	・訪問先施設から、1日のスケジュールや週の流れの情報を事前に得ながら、支援日程を調整していく必要がある。
3	・計画書作成にあたり、当センターの多職種で検討していたが、訪問先施設や担任等の意向を組み込んだ立案は不十分である。	・事前訪問にて訪問先施設や担任の意向を事前に情報収集することが不十分であった。	・事業を進めるにあたり、事前に訪問先施設や担任等の意向を聴取し、計画に反映するように努める。